



あすみ農園／大分県

農業＋観光で大分の活性化を目指す

4年前、農業経験ゼロの20代の女性が、大分県で単身、新規就農。多くの人に教えられ、失敗を糧に、温泉だけではなく大分県の魅力を農業を通じて広めたいと頑張っています!

取材・文／岸田直子 撮影／原田圭介

この時期、あすみ農園で作っている野菜の数々。下から時計回りに、オレガノ、オクラの一種のスターオブダビデ、ロメインレタス、とうがらしの仲間のピッキーニョ。



草刈り要員のやぎのイセちゃん。やぎの導入も知人から勧められた。



別府湾や猿で有名な高崎山を見渡せる、高台の段々畑にて。「ふと顔を上げると海が見える。最高の環境です」。

経験ゼロで会社員から農業の道へ

大分県別府市。眼下に別府湾を望む標高300mほどの土地で、農業に単身取り組み、注目を集めている女性がいます。「あすみ農園」の村上明日美さんです。

実は村上さん、4年前までは東京の食品関係の商社に勤めていました。出身地は山口県。まったく地縁のない大分県で就農したきっかけは、勤務先の関連会社が別府で宿泊施設を始めるにあたり、野菜を提供してくれる農業従事者を探していたことでした。

「人材がなかなか見つからなかったんです。そこで、農業経験はゼロでしたが、自分がやりたいな、と思って立候補しました」

大学は東京農業大学でしたが、学んだのは農業経済。実際に畑作業をしたことはありません。そこで、急遽、大学の先生の助言で土壌学を学び、自動車免許も慌てて取得して退社。そして2カ月後には、別府へ。

関連会社が村上さんに用意した農地は4000㎡。地元のお年寄りや農家の先輩たちに教わりながら、農機具の使い方、農業、化学肥料の上手な使い方、収穫して出荷するまでの作業など、一つ一つを体で覚え、野菜作りに取り組む日々が始まりました。

農業の大変さを実感。だからこそ楽しい!

就農2年目で、野菜の納品先だった関連会社から離れ、屋号を、「あすみ農園」に。珍しい西洋野菜を中心に生産しています。「一般的な野菜は全国で作られているので、競争相手が少ない野菜を、と思ったのです」

地元の旅館やレストランへの卸し、イベントでの販売などが現在の販路です。

「日照りや長雨など気候にも大きく影響されるし、農業は本当に大変だなあ、と実感しました。でも、失敗も苦労も含めて、どれもが楽しい。会社員時代は、早起きで地下鉄で出勤、終電近くまで働いて帰宅し就寝。太陽の光さえろくに浴びていませんでした。それがこちらでは太陽の光で目覚め、鳥の鳴き声を聞きながら顔を洗う毎日。もう、東京でのような生活には戻りません」

草刈り要員のやぎを除けば、働き手は自分一人。「かぼちゃなどの重い野菜は軽トラックまで運ぶのが大変!」と苦労談は尽きませんが、村上さんの表情はどこまでも明るく輝いています。

「縁故がなければ、自分でつながりをつくらう」と旺盛な好奇心を活かして、いろいろな集まりやイベントにも積極的に参加。昨年から

Profile

村上明日美さん

1986年、山口県生まれ。東京農業大学卒業後、東京の商社に4年間勤務したのち、2013年5月に、大分県別府市で新規就農。2015年、屋号を「あすみ農園」とする。農業女子プロジェクト、おおいだAFF女性ネットワークなど数多くの団体の一員としても活躍している。所在地／大分県別府市小倉3組 <http://asumi.farm/>

右／ほ場に設置された日本みつばちの巣。下／採取したはちみつはイベントなどで販売。ラベルからパッケージまで村上さんが手がけた。



いっぱいある趣味からも人とのつながりが広がっています!



左／「老人福祉施設などで演奏できたらいいな、と思って」ハープを練習中。中／大学時代は馬術部に所属。今も暇を見つけて乗っている。右／着物が大好きで、イベントにも着物姿で参加。